

特別公開フォーラム

人とまちが育つまちづくり —富山にみる学生と大人の協働—

20

2011年7月に富山市の中心商店街にまちなか研究室MAG.netがオープンしてから学生と大人が協働するまちづくりの取り組みがいくつもみられるようになりました。その結果、学生、大人、それぞれがこれまでもっていなかった価値観を学び成長するとともに、まちそれ自体も少しずつですが変化がみられるようになってきました。そこで、改めて富山市で学生が関わってきたまちづくりの取り組みについて、人とまちが育つという観点で整理するために2013年11月3日に特別公開フォーラム「人とまちが育つまちづくり—富山にみる学生と大人の協働—」を開催し、学生、大人の取り組みを発表してもらうとともに、専門的な知見を得るために延藤安弘氏による講演を実施しました。

1. 学生とまちづくりの協働の事例

2012年から富山市のTMO、株式会社まちづくりとやまが主催し、富山大学地域づくり・文化支援部門が後援して「学生まちづくりコンペティション」が実施されています。これは学生がまちを活性化する取り組みを提案し、地域の企業やまちづくりに関心を持つ大人が学生と協働して事業を実施するものです。このフォーラムではまず学生としてこのコンペティションに参加した藤原里帆さん（富山大学4年生）にまちと関わることで自分自身に生じた変化や関わったことで得られた成長などについて話してもらいました。次に、このコンペティションを主催するまちづくりとやまの山下裕子さんに、2013年度の学生まちづくりコンペの経過報告をしてもらいました。

2. 講演 人とまちが育つふるさと創造 (NPO法人まちの縁側育み隊 延藤安弘氏)

人とまちが育つまちづくりについて全国各地で様々な取り組みをしている延藤安弘氏から様々な取り組みの事例やその意味をお話いただきました。児童用の絵本を使いながら、人が成長することに対してまちはどのような意味を持っているのかをお話いただくとともに、人々がまちに働きかけることで、まちと人の双方に変化が生まれることを、名古屋市長者町での取り組みを中心にお話いただきました。



3. パネルディスカッション まちづくりと若者の成長

事例報告や講演を踏まえて、まちづくりと若者の成長について議論するため、延藤安弘氏（NPO法人まちの縁側育み隊）、奥田直磯氏（富山市役所）、武内孝憲氏（笑店街ネットワーク代表）、藤原里帆さん（富山大学4年生）の4名をパネラーとし、大西宏治（富山大学）の司会でパネルディスカッションを実施しました。学生まちづくりコンペティションの実施により、商店街と学生の関わりが生まれ、まちにこれまでなかった価値が創造されつつあることや、若者たちがまちを自分たちの場所だと感じるができるきっかけになっていること、まちに対する当事者意識の芽生えが延藤氏のいう「私発協働」となり、それが緩やかな人とまちのつながりを形作っていくことなどがわかってきました。

富山大学は県外出身の学生を約7割抱えており、その学生たちが富山を自分の第2の故郷と感じてもらえるような取り組みの一つがまちづくりへの学生の参画であることから、学生のまちづくり活動へ積極的に支援したいということで締めくくられました。

